

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3392200014		
法人名	医療法人 森医院		
事業所名	グループホーム あさひ		
所在地	岡山県赤磐市多賀1225-1		
自己評価作成日	平成24年3月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成24年3月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療職との連携により、本人、家族の希望に応じて看取りを行っています。</li> <li>・外出援助</li> <li>・園芸療法に力を入れている。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>のどかな田園地帯にあって、畑仕事専門の職員を配置し、広々とした畑でチューリップやパンジーなど季節の花を育て、有機栽培でいろいろな野菜を栽培し収穫を楽しむ(園芸療法)とともに、食材としても日々活用しています。医療法人を後ろ盾に緊急時をはじめ夜間・休日いつでも対応が可能で、開設以来6年を経過し、すでに10人以上の看取りを経験しています。昨年リフト車を購入してよく外出しており、家族も参加しての年2回のバス旅行は大変好評のようです。ボランティアや保育園児との交流、町内会・各種行事・運営推進会議など地域とのつながりを拡げる取り組みを進めています。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニット、業務日誌に掲示し、常に見えるようにしている	豊かな自然に囲まれ、家庭的な雰囲気の中で陽だまりのような暖かさを感じながら、その人らしく生活するという理念を掲げ、会議などで確認し合い、実践につなげています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアの方に来ていただき、リミック・演劇をして頂いている	町内会に参加し、各種ボランティアを受け入れ、園児と交流し、子供みこしの来所や夕涼み会には駐車場を開放して交流するなど地域とのつながりが保てるように取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌の回覧、運営推進会議で報告している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、地域包括、民生委員の方を交え話をしている	家族・地域包括・民生委員・区長・教育長・代表者(医師)の参加を得て2ヶ月に1回開催し、取り組みの様子を伝えています。今後さらに災害時の協力や話し合いの有効活用を目指しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括の方に運営推進会議に参加して頂いている	運営推進会議での話し合い、待機状況・事故報告のほか、疑問点や制度について直接話を聞くなど、日頃から協力関係が築けるように取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全面を考え玄関・居室の窓など施錠している。 居室の窓より外へ行こうとされることがあった。	重度化してきており、以前窓から外へ出た利用者も、今は落ち着いて職員の見守りの中で施錠しないで過ごしているようです。身体拘束について理解するとともに安心安全の介護に向けて話し合いを重ねています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ヒヤリハットを記入し、スタッフで共有している。 外傷についても記録、申し送りしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	なんとなく理解している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、説明し、署名、捺印して頂く		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	広報誌で、ホームでの行事、生活を知って頂いたり、状況報告の際、面会の際に伺っている。	面会時や手紙・電話などで家族からの意見を聞くよう努めています。帰宅願望などに家族と協力して対応したり、飲酒の希望には行事の際ノンアルコールを提供したりと、細やかな配慮がされています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議を月1回実施し、意見をだしてもらい、議事録を残し、反映させてもらっている。	日々の業務や毎月のケア会議で話し合い、自己評価・管理者評価を通じて、また年1回の全体会議で意見や提案を聞く機会が設けられており、反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	配慮して下さっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加、他施設との交流をさせて頂いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設への見学、交流をさせて頂き、情報交換している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接時、本人・家族の要望を聞き、情報を共有している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅では、どのようにしていたか尋ね、なるべく在宅と同じように生活できるように努める		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回時、聞き取りをしている。 何が必要か、話し合いサービス提供していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事を一緒にとり、寄り添い、馴染みの関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活状況を報告し、生活を知って頂くようにしている。 面会に、来て頂くように伝えている。 受診は家族にお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来て頂いている	散歩や買物、各種行事での出会い、行きつけの理美容・飲食店(家族対応)などの利用、友人・知人の面会(お見舞いとしてお金を包んだりするので家族の了承をとる)、はがきなど馴染みの関係継続を支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中、皆さん一緒の空間で過ごして頂く。 関わりの苦手な方には、短時間でも雰囲気を感じてもらえるよう、声かけ・付き添ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族～関係スタッフへの情報提供している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、生活の中で把握していく。 声かけしながら対応している。	家族からの聞き取りや、声掛けしながら表情・態度から意向を汲み取り、変化に対応し、スタッフ間で共有しながら把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回に本人、家族より生活歴を聞き、入所してからも在宅での生活を聞きながら行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察、コミュニケーション、申し送り、ケア会議で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネを中心に話し、計画後家族への説明となっている。 希望欄に記入し、署名・捺印をもらっている。	面会時や電話などで家族の意向を聞き、往診時の情報や毎月のケア会議での話し合いを参考に、本人の思いを汲み、現状に即した介護計画作成に努めています。	計画作成時に家族も交えて話し合いを持ってほしいとの希望もあり、作成後の説明と同意より、できるだけ作成前に確認し、計画に反映させることを提案したいと思います。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況を個人記録に記入し、申し送り・ケア会議の中で共有し、ケアの統一をはかっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	声かけをしながら進めているが、添えているかはわからない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	子供みこし、幼稚園との交流をしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	外来受診時、家族の意向を聞き、今までのかかっていた所へ行ってもらうようにしている。	母体医院から週1回の往診があり、夜間を含め常時医療支援が受けられ安心につながっています。従来のかかりつけ医には家族が対応されますが、緊急時・急変時は様子のわかるスタッフが付き添い受診しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時、看護師訪問時、状況報告し日々の様子を伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供書を作成し、家族に状態を聞き、退院時には様子確認に行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、スタッフ、家族で話し合い、看取りについて行っている	母体医院の医師や看護師の手厚い支援で、すでに10人以上の看取りを経験しています。段階ごとに関係者で話し合いを持ち、理解を取るとともに、スタッフ全員で穏やかな最期が迎えられよう取り組んでいます。	終末期に家族が泊り込むなどの支援があれば、職員も安心できるとの声があり、できるだけ家族を巻き込んで、ともに看取る体制が整えられるよう期待しています。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル作成、ケア会議時、話をし再確認できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練をしている。 入居者も一緒に参加し、消防署の方も来て頂いている。	消防署の参加協力を得ながら、利用者とともに訓練を実施しています。今後運営推進会議でも呼びかけ、地域の人や消防団を巻き込んだ訓練を目指しているとのことです。	あらゆることを想定し、地域や消防・関係者を巻き込んだ訓練や話し合いが求められています。停電などに備え(水・カセットコンロ・食料・トイレ・防寒など)準備を進めていかれることを願っています。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合せ、声かけをしている	一人ひとりに合った言葉掛けを心がけ、スタッフ間で情報を共有し、その人らしさを尊重し、持てる力を活かした(野菜の下処理など)支援に取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけし、どうしたいのか尋ねることもある。何がしたいのか(個別レク)尋ねるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声かけし、なるべく添えるようにはしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	習慣、身だしなみを大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る事が少しずつ減ってきているが、出来る事をして頂くようにしている。(食材の下処理など)	できる人には手伝ってもらいながら、畑で取れた野菜を使い、摂取カロリーに注意し、3度3度の食事を手作りしています。食前・食後皆で挨拶をし、スタッフも含め全員でテーブルを囲み楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分など、チェック表に記入している。個々に合せ食事量を調節している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしている。 1ヶ月に1度、歯科医に往診に来て頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を作成し、把握している。 夜間おしめを使用している方がいるが、日中はトイレ誘導をしている。	排泄チェック表を活用して、時間を見計ってさりげなく声をかけ、日中はできるだけトイレでの排泄を心がけています。夜間ポータブルを利用している人もあり、自立に向けた支援に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ケアボックスを取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を決め、対応している。	毎日準備し、その日の気分や体調により、柔軟に対応しています。ゆず・菖蒲湯で風情を感じ、一番風呂の希望に添い、重度者には頑張って2人対応で入湯できるよう援助し、楽しみが持てるように支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転を防ぐ為、日中はホールで過ごす頂く。 状況により、日中でも臥床し、休んで頂く時間を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	変更になった場合、申し送りし、伝えている。 薬については、スタッフで管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	話をしながらすすめている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出において、家族にお願いすることもあるが、状態により難しくなっている。	日常的に散歩や裏の畑に出かけ、外でおやつを食べたりしています。昨年リフト車を購入し、ドライブや買物など順番に外出できるよう取り組んでいます。年2回、30人乗りバスを仕立てて家族同伴で日帰り旅行をしており、楽しいひと時を過ごしています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で管理している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	はがきを書くことができる方には、支援できている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節・行事がわかるように雰囲気づくりをしている	キッチンから居室・トイレ・洗面台が見渡せ、ガラス戸を開けて菜園に出ることができます。共用空間は広々としており、各種行事など催しに利用することもでき、季節の飾りつけがなされ、ソファやテーブルが置かれ、それぞれに居場所を見つけてくつろいでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでの座り方については、スタッフが配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた馴染みのものを持ってきてもらえるようにしている	個々に好みのものを持ち込み、思い思いに配置し、落ち着いて過ごせるように工夫しています。入口にはそれぞれ花の名前がつけられ、識別できるようになっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所がわかるように表示している		